

カリキュラムマップ（科目ナンバリング）

カリキュラムマップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表のことで、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するのかが示されています。

このカリキュラムマップにより、学修内容の順次性や科目間の関連性が一目でわかり、自らの学修内容を容易に把握することができます。

カリキュラムマップの授業科目には科目ナンバーが付いています。これを科目ナンバリングと言います。

科目ナンバリングは授業科目に適切な番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みで学生が科目の水準や専門性に依りて適切な授業科目を選択し、受講する手助けとなります。また、分野の3桁は全学共通のコードであるため他学部や他学科の科目を履修する際に、学びたい分野を探し体系的に履修するための1つのツールとして活用することができます。

教養教育科目 カリキュラムマップ

①教養部における「人材の養成・教育研究上の目的」（P.44参照）に則り、教養教育のカリキュラムは、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な知識と価値観および深い洞察力を涵養する「リベラル・アーツの修得」を柱とする。②「基礎学力の育成」においては、情報収集力や言語表現力などの基礎学習力を培い、さらに課題発見力、論理的思考力、問題解決力、自己表現力を育成するために多彩な教育科目を展開する。③「リベラル・アーツの修得」においては、新たな価値の創造と知の多様性に対応できる人材の養成を目指して、人文科学・社会科学・自然科学の広範な領域、及び学際的なテーマを網羅した多種多様な科目を開講する。

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3						
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成						
				B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
				高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
宗教学Ⅰ B111-113-01	「建学の精神」を学び、また、多様な宗教の見方・捉え方（分類法など）や、世界各地の宗教の概要・歴史を学習する。	宗教を客観的に学ぶことで高い倫理性を持った人間性を獲得し、また、世界各地の宗教を学ぶことで多様な文化・価値観を理解する。	◎	◎	◎	○		○	○	○		
宗教学Ⅱ B111-113-02	インドで生まれた仏教・禅の教え（世界観・価値観）の基本を学び、世界各地へ伝わった歴史を学ぶ。	仏教の智慧を学ぶことで、課題発見力や問題解決力を養い、また、慈悲を学ぶことで、他者との協調性を養い、価値観の多様化した現代においても力強く生きられる柔軟性を得る。	◎	◎	◎	○		○	○	○		
教養セミナー 「学問の発見」Ⅰ B132-841-01	教員の専門性を生かしながら、学生の学びへの姿勢を喚起させる。そのため、愛知学院大学教養部が編纂した教養セミナーハンドブック第Ⅰ部『大学で学ぶために』を共通テキストとして使用する。	リベラル・アーツへの目覚めを喚起し、高校までの受動的な学習形態から、大学での能動的な学習形態へ導き、大学で学ぶための心構えを意識させることを目標とする。	○	○	○	○		◎	◎	○	○	◎
教養セミナー 「学問の発見」Ⅱ B132-841-02	教員の専門性を生かしながら、学生の学びへの姿勢を喚起させる。そのため、愛知学院大学教養部が編纂した教養セミナーハンドブック第Ⅰ部『大学で学ぶために』を共通テキストとして使用する。	リベラル・アーツへの目覚めを喚起し、高校までの受動的な学習形態から、大学での能動的な学習形態へ導き、大学で学ぶための心構えを意識させることを目標とする。	○	○	○	○		◎	◎	○	○	◎
教養セミナー 「学問の発見」Ⅲ B232-841-03	「教養セミナーⅠ・Ⅱ」の発展系の授業として「学問の発見」をより深く考える科目であり、各担当教員の専門性を活かした形での授業として少人数のセミナー形式で授業が行われる。	各担当教員による幅広い分野の専門性を活かした科目として、学問に対する好奇心や探究心などをより一層高めることを目標とする。	○	○	○	○		◎	◎	○	○	◎
教養セミナー 「学問の発見」Ⅳ B232-841-04	「教養セミナーⅠ・Ⅱ」の発展系の授業として「学問の発見」をより深く考える科目であり、各担当教員の専門性を活かした形での授業として少人数のセミナー形式で授業が行われる。	各担当教員による幅広い分野の専門性を活かした科目として、学問に対する好奇心や探究心などをより一層高めることを目標とする。	○	○	○	○		◎	◎	○	○	◎
心理学Ⅰ B131-285-01	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心を向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。	○	○	○				◎	○	◎	○
心理学Ⅱ B131-285-02	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心を向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。	○	○	○				◎	○	◎	○

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
哲学Ⅰ B131-111-01	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。	○	△	△		○	◎	◎	△	
哲学Ⅱ B131-111-02	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。	○	△	△		○	◎	◎	△	
論理学Ⅰ B131-111-11	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。					○		◎	△	
論理学Ⅱ B131-111-12	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。					○		◎	△	
文学Ⅰ B131-135-01	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。		◎		△	○	○	◎		
文学Ⅱ B131-135-02	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。		◎		△	○	○	◎		
美術Ⅰ B131-116-01	美術の歴史、人物、環境等を通し現代社会の美術の見方、考え方を学び美術の基本姿勢を修得させていく。	美術の基本的な姿勢や見方を修得する。個々の美術観を築き表現法を見出ししていく。	◎	○	○	△	○	○	○	△	◎
美術Ⅱ B131-116-02	美術の基本理念に基づき多様に広がる美術事情を探り自己の美意識を広げ表現力を高めていく。	美術の理念を深め自己の造形に表現力を加え、美術の基礎の確立を計る。	◎	○	○	△	○	○	○	△	◎
法学Ⅰ B131-211-01	法学全般の基礎、及び憲法の基礎について講義する。	法学全般に通じる基本原理、及び憲法の基本原理を理解する。	○	△		○	○	○	◎	◎	
法学Ⅱ B131-211-02	民法の基礎について講義する。	民法の基本原理を理解する。	○	△		○	○	○	◎	◎	
政治学Ⅰ B131-222-01	民主主義・自由主義などの原理、執政制度・選挙制度などの政治制度を学ぶ。	政治の基本的原理や制度を理解する。	○	○		○	○	○	◎	◎	
政治学Ⅱ B131-222-02	日米英独仏など各国の政治を比較して学ぶ。国際政治の仕組みについて学ぶ。	各国政治および国際政治の基本を理解する。	○	○		○	○	○	◎	◎	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
社会学Ⅰ B131-261-01	本講義は、具体例を挙げながら、社会学が考えてきたこと、明らかにしてきたことを確認し、社会学の概念や方法を理解していきます。また、それらの知識を用いて、現代社会の諸課題についても考えます。	社会学の「問い」、「概念」、「方法」を理解すること。そして、社会的思考を用いて、自ら現代社会の諸課題の様相について説明できるようになること。	○	◎		△		○	◎	○	
社会学Ⅱ B131-261-02	本講義は、社会階層、文化集団、コミュニティ等を取り上げ、社会的な視点からそれらの集団の特徴を理解していきます。そして各集団と現代社会の諸課題の関連についても考えていきます。	各集団の特徴を理解すること。そして、現代社会の諸課題が各集団のなかでなぜ発生し、どのように顕在化していくのかについて説明できるようになること。	○	◎		△		○	◎	○	
教育学Ⅰ B131-271-01	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○			○		◎	◎	○	
教育学Ⅱ B131-271-02	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○			○		◎	◎	○	
歴史学Ⅰ B131-161-01	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	
歴史学Ⅱ B131-161-02	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	
地理学Ⅰ B131-181-01	地理学の基礎的な知識を、国内外の社会の中にみられる具体的な実例を挙げながら紹介する。社会や自然を構成する多様な要素を取り上げ、それらの相互関係や、分布の差異を示すことで、地理学的なものとのとらえ方を身に着ける。	社会の中にみられる諸現象を地理学的な観点から説明することができる。世界あるいは日本の中にみられる多様性と地域性について理解することができる。	△	◎	○	○		○	◎	○	
地理学Ⅱ B131-181-02	地理学が扱う多様な課題の中から特定のものを取り上げ、その問題を関連する事象とともに追究する。このことによって、取り上げる課題についての理解を深めるとともに、地理学的なものとのとらえ方についても深化させる。	取り上げる地理学的課題についての基礎的な知識事項を述べるることができる。取り上げる地理学的課題を通じて、世界・日本の社会・自然のあり方について、論理的な考察が行えるようになる。	△	◎	○	○		○	◎	○	
数学Ⅰ B131-323-01	数学の問題を解くことを通して、数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。						○	◎	◎	
数学Ⅱ B131-323-02	数学の問題を解くことを通して、より進んだ数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な、より進んだ数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。						○	◎	◎	

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
統計学Ⅰ B131-603-01	統計の問題を解くことを通して、統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ統計の手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				◎		○	○	◎	
統計学Ⅱ B131-603-02	統計の問題を解くことを通して、より進んだ統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ、より進んだ統計の手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				◎		○	○	◎	
物理学Ⅰ B131-420-01	歴史を辿ったり、身近な現象を題材にしたりしながら、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ?という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。						△	◎	○	
物理学Ⅱ B131-420-02	歴史を辿ったり、身近な現象を題材にしたりしながら、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ?という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。						△	◎	○	
化学Ⅰ B131-420-11	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの?」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。						△	◎	○	
化学Ⅱ B131-420-12	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの?」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。						△	◎	○	
生物学Ⅰ B131-420-21	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。				△		○	◎	◎	
生物学Ⅱ B131-420-22	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。				△		○	◎	◎	
仏教と現代社会Ⅰ B231-112-01	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる	○	◎	◎	○		○	○	○	○
仏教と現代社会Ⅱ B231-112-02	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる	○	◎	◎	○		○	○	○	○
禅と人間Ⅰ B231-112-11	禅の概要および禅宗の特徴を概説し、禅語(公案)を通じて禅の思想を解説するとともに、坐禅の実習によって禅の修行を体感する	坐禅や公案の学習などの禅の修行生活の重要な要素を通じて、禅の本質を理解する	◎	○				△	○		
禅と人間Ⅱ B231-112-12	中国および日本における禅宗の歴史や思想を概説し、禅の影響のもと成立した茶道・絵画・建築・陶磁器・書などの日本独自文化を解説する。	禅と日本文化との関係を具体的に理解し、禅によって培われた日本独自の美意識や感性を体得する	○	◎							△
生命に関する諸問題Ⅰ B231-118-01	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見い出したりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	◎	○		○		◎	○	○	

教養教育科目 カリキュラムマップ											
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
生命に関する諸問題Ⅱ B231-118-02	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見出したりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	◎	○		○		◎	○	○	
人間行動の理解Ⅰ B231-285-01	心理学で扱う理論や事象は実験や調査で得られたデータに基づいている。本講義では、実際に実験を行い、仮説検証の考えからデータの収集方法、結果の解釈に至るまで、心理学の基本的な方法論について理解を深める。	心の仕組みや働きを明らかにするための様々な方法論を理解したうえで、科学的な手続きと正確なデータ収集の重要性を認識し、さらにそれらをまとめて論理的な報告書の作成ができるようになること。	○	○	○	◎		◎	○	○	
人間行動の理解Ⅱ B231-285-02	フロイトの精神分析の口語版といわれる「交流分析」の理論と実践について学ぶ。交流分析は、パーソナリティ理論やコミュニケーション理論を含む心理療法のひとつであり、自己洞察を繰り返すことで、より良い人間関係と自己の生き方を築くことを目指す。	自己理解と他者理解を深め、よりよいコミュニケーションと自己の問題点の把握と改善へつなげること。	○	○	◎			○	○	◎	○
人間の尊厳と平等Ⅰ B231-261-01	本授業では、これまでに人間社会が形成してきた人権について、様々な歴史的事例や条文などの学びを通して、人権の基礎を習得する。	人権の成立過程や現代における課題を学び、一人一人の人間性を尊重し、他者と協調できるようにする。また、差別について批判的精神を養う。	◎	○	◎	○		○	○	○	
人間の尊厳と平等Ⅱ B231-261-02	本授業では、社会福祉の成立過程を学びながら、「福祉国家」や「社会福祉事業」への理解を深め、社会福祉の基礎を習得する。	社会福祉の学びを通して、一人一人の人間性を尊重し、多様な価値観を理解できるようになる。そして、自ら社会貢献が積極的に可能になることを目指す。	○	◎	◎	○		○	○	○	○
日本の文化と社会Ⅰ B231-162-01	東海地方は戦国末から近世初期にかけての城郭が多い。その遺構から時代の変化、政治・社会構造の転換を複合的に解析する。	科学的な探究の精神に基づいて、歴史的な事例を求め、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。				△	○	○	◎		
日本の文化と社会Ⅱ B231-162-02	日本における総力戦の指導者である永田鉄山の構想を通して、昭和陸軍の軌跡を辿る。	科学的な探究の精神に基づいて、歴史的な事例を求め、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。			◎	△	○	○	◎		
アジアの文化と社会Ⅰ B231-163-01	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	○
アジアの文化と社会Ⅱ B231-163-02	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	○	◎	△	○	○	◎	○	○	○
ヨーロッパの文化と社会Ⅰ B231-165-01	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	○	◎		○		◎	○	○	
ヨーロッパの文化と社会Ⅱ B231-165-02	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	○	◎		○		◎	○	○	

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3						
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成						
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6	
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う	
英語圏の文化と社会Ⅰ B231-804-01	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解できる		○			○					
英語圏の文化と社会Ⅱ B231-804-02	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解して説明できる		○			○					
人間と環境Ⅰ B231-646-01	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混濁の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。		○		○		○	○	○		
人間と環境Ⅱ B231-646-02	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混濁の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。		○		○		○	○	○		
情報と社会Ⅰ B231-622-01	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。		○		○		○	○	○		
情報と社会Ⅱ B231-622-02	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。		○		○		○	○	○		
産業と科学Ⅰ B231-118-01	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。				○		○	○	○		
産業と科学Ⅱ B231-118-02	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。				○		○	○	○		
ソフトウェア概論Ⅰ B231-605-01	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、コンピュータの多様な使い方を習得する。	コンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。						○	○	○		△
ソフトウェア概論Ⅱ B231-605-02	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、より進んだコンピュータの多様な使い方を習得する。	より進んだコンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。						○	○	○		△
健康の科学 B231-594-01	健康や病気を理解するための基礎知識、とくに生活習慣との関わりや疾病予防の重要性について解説する。	健康的な生活を送るための基礎知識を身につけ、日常生活の中で実践できるようになることを目的とする。			△	△		○	○	○		
英語Ⅰa B114-141-01	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	基礎的な英語表現の聞き取りと基礎的な会話表現ができる		○	○			○				○
英語Ⅱa B114-141-02	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	少し発展的な英語表現の聞き取りと会話表現ができる		○	○			○				○
英語Ⅰb B114-141-03	英語の読解を中心とした総合演習	基礎的な英文を読んで内容が理解できる		○		○		○		○		
英語Ⅱb B114-141-04	英語の読解を中心とした総合演習	少し発展的な英文を読んで内容が理解できる		○		○		○		○		

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
英語Ⅰc B214-141-05	英作文・英文法を中心とした総合英語	基礎的な英文を書いて自己表現ができる		○			◎		○		○
英語Ⅱc B214-141-06	英作文・英文法を中心とした総合英語	少し発展的な英文を書いて自己表現ができる		○			◎		○		○
ドイツ語Ⅰ B114-145-01	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		◎			◎		○		○
ドイツ語Ⅱ B114-145-02	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		◎			◎		○		○
中国語Ⅰ B114-147-01	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。		◎			◎		○		○
中国語Ⅱ B114-147-02	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確かなものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。		◎			◎		○		○
フランス語Ⅰ B114-146-01	綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。	フランス語文を単独で音読できるようにし、挨拶や買い物などの簡単な日常会話に慣れる。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅱ B114-146-02	人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。辞書を利用して平易なフランス語文を訳読し、暗記する。	会話文や説明文を、辞書を用いて単独で読解する。人物の会話から、フランス人の基本となる物の考え方を理解する。		◎		○	◎		○		○
韓国語Ⅰ B114-148-01	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、それを通じて朝鮮半島の歴史、社会、文化、思想について理解を深め、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎		○	◎		○		○
韓国語Ⅱ B114-148-02	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、それを通じて朝鮮半島の歴史、社会、文化、思想について理解を深め、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎		○	◎		○		○
ドイツ文化事情 B124-145-61	ドイツ語圏の国々の思想・文化・社会の探究	「ドイツ」から今後の日本社会に優れた考え方を学び取る		◎		○		○			
中国文化事情 B124-147-61	映像等を用い、中国の歴史、地理、社会等各方面から、中国語の背後にある中国文化の様々な側面を学び、多様な文化に対する理解を深める。	中国の社会や伝統文化に対する知識を増やし、より広い視野を持って、多様な文化、価値観が理解できるようなることを目指す。		◎		○		○			

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理 性と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
フランス文化事情 B124-146-61	フランス人の物の考え方や、習慣、歴史、社会制度などを習得する。異文化理解が単一民族の日本人には重要であることを認識する。	個人の自由を重んじるフランス人の国民性を理解し、それが日常生活や社会制度の中で、どのように機能しているかを考察を深める。		◎		○		◎	○	○	
韓国文化事情 B124-148-61	様々な文献・視聴覚資料を活用し、韓国・朝鮮の文化・社会・歴史などについて学ぶ。単なる知識の伝達ではなく、日本との比較などや、様々な観点からの観察・分析、「韓国文化」の全般について正しく理解していく。	日常の様々な事柄について客観的な立場から観察・分析力を身につけることができる。また、日韓の文化比較を行い、様々な意見や情報交換によって、自分の意見を表明する積極性と論理性を高めることができる。		◎	○	○	○		◎		○
日本語Ⅰa B114-139-01	高度な文法力や読解力を身につけることを目的に論理的な文章を読む。	論理的な文章が読めるようになる。また、教材を通して日本社会への理解を深めることができる。						◎		◎	○
日本語Ⅱa B114-139-02	読解力を向上させるために、論理的な文章だけでなく、エッセイなども取り上げて読む。	様々なタイプの文章を、一人で読めるようになる。また、内容に関して意見や感想をまとめることができる。						◎		◎	○
日本語Ⅰb B114-139-03	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	留学生活に必要な聴解力・会話力を身につけ、わかりやすい発表ができるようになる。				○	◎		○		◎
日本語Ⅱb B114-139-04	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	日本社会で起きている話題について聴き取れ、資料を基に論理的に意見が述べられるようになる。				○	◎		○		◎
日本語Ⅰc B114-139-05	論理的な文章をわかりやすく書くための基礎的な技法を学ぶ。	事実と自分の考えとを書き分ける力、資料に基づいて自分の考えを書き進める力などを身につけることができる。						◎		○	◎
日本語Ⅱc B114-139-06	関心のあるテーマについて問題を見出し、資料を用いてその答えをレポートとしてまとめる。	レポートを書くことを通して、読み・書きの高度な日本語力を身につけることができる。				○	◎	○	◎	○	○
日本語Ⅰd B214-139-07	意見文を読み、自分の意見を述べたり、内容を要約したりする。	社会で問題になっている様々な問題について、自分の考えをわかりやすく述べるができる。		○				◎		○	◎
日本語Ⅱd B214-139-08	ディベートやスピーチ学習などを通して、まとまりのある内容を的確に伝える方法を学ぶ。	自分の考えをわかりやすく伝えることができる。		○	○	○	◎	○	○	○	◎
日本語Ⅰe B214-139-09	「食」をメインテーマに課題を設定し、資料を集め、まとめて発表する。	高度な日本語力およびプレゼンテーション能力を身につけることができる。		○		○	◎	◎	○	○	○
日本語Ⅱe B214-139-10	日本の文化や社会に関するテーマについて、課題を設定し、調べて発表する。	高度な日本語力およびプレゼンテーション能力を身につけることができる。		○		○	◎	◎	○	○	○
英会話Ⅰ B134-141-11	外国人教員による英会話演習	簡単な英会話で自己表現ができる		○	○			◎			○
英会話Ⅱ B134-141-12	外国人教員による英会話演習	少し発展的な内容の英会話で自己表現ができる		○	○			◎			○
英会話Ⅲ B234-141-21	外国人教員による発展的英会話演習	日常的な内容の英会話で自己表現ができる		○	○			◎		○	○

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
英会話Ⅳ B234-141-22	外国人教員による発展的英会話演習	発展的な様々な内容の英会話で自己表現ができる		○	○		◎		○		○
メディア英語Ⅰ B134-141-17	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで基本的な表現が理解できる		○			◎		○		
メディア英語Ⅱ B134-141-18	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで少し発展的な表現が理解できる		○			◎		○		
メディア英語Ⅲ B234-141-27	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで多くの表現をそのまま理解できる		○			◎		○		
メディア英語Ⅳ B234-141-28	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで発展的な内容がそのまま理解できる		○			◎		○		
英語表現法Ⅰ B134-141-15	英作文や会話などの英語による自己表現演習	基礎的な英語を使って自己表現ができる		○			◎		○		○
英語表現法Ⅱ B134-141-16	英作文や会話などの英語による自己表現演習	少し発展的な英語を使って自己表現ができる		○			◎		○		○
英語表現法Ⅲ B234-141-25	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる		○			◎		○		○
英語表現法Ⅳ B234-141-26	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	少し発展的な英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる		○			◎		○		○
英語読解法Ⅰ B134-141-13	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で様々な英文の内容が理解できる		○		○	◎		○		
英語読解法Ⅱ B134-141-14	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で少し発展的な英文の内容が理解できる		○		○	◎		○		
英語読解法Ⅲ B234-141-23	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な英文の内容が理解できる		○		○	◎		○		
英語読解法Ⅳ B234-141-24	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な発展的な英文の内容が理解できる		○		○	◎		○		
実践英語Ⅰ B134-141-31	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で基礎的な問題の解答ができる					◎		○		
実践英語Ⅱ B134-141-32	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で少し発展的な問題の解答ができる					◎		○		
実践英語Ⅲ B234-141-41	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で発展的な問題の解答ができる					◎		○		
実践英語Ⅳ B234-141-42	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で少し高度な問題の解答ができる					◎		○		

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
ドイツ語Ⅰ（基礎） B134-145-11	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		○			○		○		○
ドイツ語Ⅱ（基礎） B134-145-12	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解		○			○		○		○
ドイツ語Ⅲ（読解） B234-145-21	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化		○			○		○		○
ドイツ語Ⅳ（読解） B234-145-22	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化		○			○		○		○
ドイツ語Ⅲ（表現） B234-145-31	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力（作文力）強化		○			○		○		○
ドイツ語Ⅳ（表現） B234-145-32	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力（作文力）強化		○			○		○		○
ドイツ語Ⅲ（総合） B234-145-41	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化		○			○		○		○
ドイツ語Ⅳ（総合） B234-145-42	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化		○			○		○		○
ドイツ語会話Ⅰ B234-145-51	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成		○	○		○		○		○
ドイツ語会話Ⅱ B234-145-52	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成		○	○		○		○		○
中国語Ⅰ（基礎） B134-147-11	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。		○			○		○		○
中国語Ⅱ（基礎） B134-147-12	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確実なものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。		○			○		○		○
中国語Ⅲ（読解） B234-147-21	1年次に習得した中国語を基礎に、簡単な文章を読むことによって中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の読解力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。		○			○		○		○

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
中国語Ⅳ（読解） B234-147-22	中国語Ⅲ（読解）を受けて、様々な文章を読むことによつて、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の読解力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 3級の合格を目指す。		○			○		○		○
中国語Ⅲ（表現） B234-147-31	1年次に習得した中国語を基礎に、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の表現力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 2級の合格を目指す。		○			○		○		○
中国語Ⅳ（表現） B234-147-32	中国語Ⅲ（読解）を受けて、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の表現力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 3級の合格を目指す。		○			○		○		○
中国語Ⅲ（総合） B234-147-41	1年次に習得した中国語を基礎に、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、常用語を身につけ、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の運用能力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 2級の合格を目指す。		○			○		○		○
中国語Ⅳ（総合） B234-147-42	中国語Ⅲ（総合）を受けて、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、使える常用語を増やし、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK 3級の合格を目指す。		○			○		○		○
中国語会話Ⅰ B234-147-51	発音の練習を重視し、ペアワークによる会話練習を行い、中国語の会話力を向上させる。併せて、作文と翻訳の練習も行い、中国語の総合的な運用能力を高める。	1年次で学んだ中国語の発音をより正確なものにし、あいさつなどの簡単な言葉から日常用いる初歩的な会話ができるようにする。中国政府公認の中国語検定試験HSK 2級の合格を目指す。		○			○		○		○
中国語会話Ⅱ B234-147-52	中国語会話Ⅰを受け、引き続き発音練習を重視し、ペアワークによる会話をほぼ毎回行って、会話力をより向上させる。併せて作文と翻訳の練習にも力を入れ、中国語の総合的な運用能力を高める。	中国語をより正確に発音できるようにし、より多くのことを表現できるよう会話力を高める。会話力と同時に、作文能力や読解力も向上させ、中国政府公認の中国語検定試験HSK 3級の合格を目指す。		○			○		○		○
フランス語Ⅰ（基礎） B134-146-11	綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。	フランス語文を単独で音読できるようにし、挨拶や買い物などの簡単な日常会話に慣れる。		○			○		○		○
フランス語Ⅱ（基礎） B134-146-12	人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。辞書を利用して平易なフランス語文を訳読し、暗記する。	会話文や説明文を、辞書を用いて単独で読解する。人物の会話から、フランス人の基本となる物の考え方を理解する。		○			○		○		○
フランス語Ⅲ（読解） B234-146-21	フランス語の会話文や比較的読みやすい文学作品の文章を訳読し、その中の基本的な表現を暗記する。	テキストの各章のテーマにそって、登場人物による会話の機微を捉える。フランス語独特の言い回しに注意を払う。		○			○		○		○

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
フランス語Ⅳ (読解) B234-146-22	会話文の中で描かれる日常生活のユーモアを読み解く。人生の指針となるような文章は、暗記して覚える。	会話文の登場人物になったつもりで、情感をこめて文章を音読する。共感を覚えた表現は、反復して忘れないようにする。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅲ (表現) B234-146-31	フランス語の会話文を読みながら、その口語表現が持っている微妙なニュアンスを読み取る。使用頻度の高い文は暗記する。	フランス語の会話文の中にちりばめられている、エスプリの効いた表現を覚え、自分の人生に当てはめてみる。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅳ (表現) B234-146-32	フランス語の文学作品が描きだす人間感情の機微を読み取るようにする。感動した文は、暗記して心に留める。	文学作品の中に出てくる、感動的で重要な意味合いの文を、何度も反復しながら味読する。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅲ (総合) B234-146-41	短文の反復や言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の表現を確実に身につける。	フランスで生活するつもりになって、フランス語でフランス人に意志を伝えるつもりで、フランス語会話に集中する。		◎		○	◎		○		○
フランス語Ⅳ (総合) B234-146-42	練習問題による言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の構造を確実に身につける。	フランス語の基本的な例文を覚えると同時に、日本語からフランス語への言い換えも行えるようにする。		◎		○	◎		○		○
フランス語会話Ⅰ B234-146-51	フランス語の発音の仕方、身振り、手振りなどの動作、顔の表情などを、フランス人自身から直に学ぶ。	フランス人の発音、表情、動作などを、素直に反復することから始めて、外国人と対話する楽しみを知る。		◎		○	◎		○		○
フランス語会話Ⅱ B234-146-52	テキストの意味を理解するだけでなく、片言の語彙であっても、自分からフランス語を口に出して言ってみる。	進んで教師にフランス語で話しかけるようにする。文法を気にするよりも、身振りや表情を交えてコミュニケーションを取る。		◎		○	◎		○		○
韓国語Ⅰ (基礎) B134-148-11	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅱ (基礎) B134-148-12	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。		◎	○		◎		○		○
韓国語Ⅲ (読解) B234-148-21	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象にし、レベルアップした基礎文法を学ぶ。コミュニケーションの訓練とともに、文法と構文の理解、表現力を身につける。また、旅行やビジネス場面でよく使われる表現を学ぶ。	韓国語の基礎文法を踏まえ、より豊かな基礎会話を養うことを目標にする。徐々に語彙・文法項目を増やしていき、韓国語で書かれた文章に対する理解力を高める。		◎	○		◎		○		○

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3								
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成								
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6			
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う			
韓国語Ⅳ (読解) B234-148-22	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人を対象にし、中級を目指して実践的な表現を学ぶ。定型表現の学習は、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。	中級レベルの文法や語彙を学び、韓国語としてより自然で円滑なコミュニケーションができるようにする。より豊かな言語表現力を養い、韓国語文章に対する「読む・書く」能力の上達を目標にする。		◎	○			◎		○				○
韓国語Ⅲ (表現) B234-148-31	文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基本文の作り方を練習する。そのために、基本文法と単語の学習を充実に行う。これに基づいて、実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。		◎	○			◎		○				○
韓国語Ⅳ (表現) B234-148-32	韓国語の文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基礎的な文の作り方を練習する。そのために、基本文法と基礎単語の学習を充実に行う。実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。		◎	○			◎		○				○
韓国語Ⅲ (総合) B234-148-41	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生を対象にし、ハングル検定試験5級に合格するために必要な発音の仕組み、基本文法などを学習していく。文法事項や語句、日常会話文等を繰り返し練習し、ハングル検定試験5級合格に必要な基本的な能力を身につける。	基本文法については韓国語Ⅰ・Ⅱで学習した復習から始め、ハングル検定試験5級合格のために必要な発音と文法を学び、自ら学習できるようにする。基本文法と語句、日常会話文などの反復学習を通して習得していく。また練習問題と課題を通して、その定着と更なる応用発展を図る。		◎	○			◎		○				○
韓国語Ⅳ (総合) B234-148-42	ハングル検定試験5級に合格するため、基本文法、語句、日常会話文などを学習する。また11月に実施されるハングル検定試験に向けて実際の過去問を用いて練習する。適宜、試験に必要な発音や文法、語彙に関する解説を行う。	ハングル検定試験5級に合格する、あるいは5級に挑戦できる能力を身につけることを目標とする。すでに5級を取得した学生にとっても、次のステップアップにつながる足場を固める場となることを目標とする。		◎	○			◎		○				○
韓国語会話Ⅰ B234-148-51	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみることで、積極的に話す機会を与える。	ハンガルの読み書きが確実にできるようにする。基礎的な文法を身につけ、あいさつ、自己紹介、身の回りのことについて自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようにする。		◎	○			◎		○				○
韓国語会話Ⅱ B234-148-52	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみることで、積極的に話す機会を与える。	約700個の単語をもとに、初級レベルで必要な会話のスキルを身につけるようにする。その上で日本語とは異なる韓国語特有の会話の仕方を学習し、その背景にある文化についても考察できるようにする。		◎	○			◎		○				○

教養教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	B-DP1	B-DP2		B-DP3					
			自己探求 心の育成	理解・協調性		基礎学力の育成					
			B-DP1-1	B-DP2-1	B-DP2-2	B-DP3-1	B-DP3-2	B-DP3-3	B-DP3-4	B-DP3-5	B-DP3-6
			高い倫理性 と豊かな人 間性の涵養	多様な文化 と価値観の 理解	他者との協 調性	情報収集力 を培う	言語表現力 を培う	課題発見力 を養う	論理的思考 力を養う	問題解決力 を養う	自己表現力 を養う
スポーツ科学Ⅰ B115-592-01	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎
スポーツ科学Ⅱ B115-592-02	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎
スポーツ科学Ⅲ B235-592-03	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」目標とする。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎
スポーツ科学Ⅳ B235-592-04	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」目標とする。	○	○	○	○	△	△	△	◎	◎

◎・・・教育目標達成のために、特に重要な事項

○・・・教育目標達成のために、重要な事項

△・・・教育目標達成のために、望ましい事項

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

経済学部における「人材の養成・教育研究上の目的」（P.2参照）に則り、専門教育のカリキュラムは、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づいて、経済学の基礎的および専門的な知識を幅広く学び、その実践的応用によって現代経済の構造変容の実態と新しい課題を自ら分析する力を身に付けることです。そして、それらを基礎として問題の本質を適確に把握し、課題解決のための適切な方法を構想しうる学問的基礎を備えた社会人を養成するとともに、それを通じて人間的共感と社会的公正を基礎とする、真に豊かで持続可能な経済社会の実現に寄与しうる社会人を育成することにあります。

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4			
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力			
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4
			理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働的実践力	実践的応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力
ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ E111-231-01 E111-231-02	入門レベルのミクロ経済学を講義する。ミクロ経済学Iでは主に完全競争市場を、ミクロ経済学IIでは経済主体の合理的行動と市場の失敗を扱う。	経済学の基本的な考え方を理解し、すべての応用分野を学習するために必要な知識を身につけることが目標である。	◎													
マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ E111-231-04 E111-231-05	国内総生産をはじめとする経済データの理解、経済主体の相互依存関係、財市場・貨幣市場・労働市場の分析などを通じて、経済学の「森」を鳥瞰する。	社会全体の視点から経済学の基本的な概念・理論を理解し、マクロ経済学的に経済事象を論じることができる。	◎													
経済数学Ⅰ・Ⅱ E111-231-07 E111-231-08	経済学を学ぶために必要な数学を講義する。さまざまな関数、微分と最適化問題などを学びながら、論理的な思考力や解答の作成方法を身につける。	中学校・高等学校レベルの数学を正しく理解し基本的な最適化問題を解けるようになること、論理的な解答を作成できるようになることが目標である。		◎												
キャリア英語Ⅰ・Ⅱ E111-144-01 E111-144-02	実用的な英語力、特にビジネスシーンで生かせる英語力の育成を目指して、TOEICを中心とした演習を行う。	基礎的な英語表現を確認するとともに、ビジネスシーンにおいて使用される語彙や表現を新たに学んで、実用的な英語表現を多く修得する。			◎											
情報リテラシーA・B E111-277-01 E111-277-02	大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー（ビジネス系ソフトウェアの基礎的技能とICT全般の基礎的知識）を学ぶ。	文書編集のWord、表計算のExcel、プレゼンテーションのPowerPointといったソフトウェアの基礎的な操作方法とセキュリティや情報モラル等を含めたICT全般の基礎的知識が身につく。			◎											
経済統計学A・B E221-233-01 E221-233-02	中心的傾向の特性値、分布の広がり特性値等を理解し、その上で、経済データ等に関して相関係数や回帰式などを求め、主観的な判断ではなく客観的に統計的検定を行う。	表計算ソフトを利用すれば、簡単にさまざまな統計数値を得ることができるが、ここでは、感情やその時々気持で判断するのではなく、統計的な判断を行えるようになる。		◎			◎	◎								
経済学史A・B E221-232-01 E221-232-02	経済学という学問がいかにして誕生したか、それが近代社会の発展とともにどのように発展してきたか、メジャーな経済学者を取り上げて講義する。	経済学の発達史を学び、多様な経済学・経済についての多様な理解があることを知り、経済という人間の営みについて幅広い柔軟な理解を獲得する。					◎	◎								
一般経済史A・B E221-237-01 E221-237-02	近代ヨーロッパ資本主義の誕生、確立、発展、変容の歴史過程を概説したのち、ヨーロッパとアジアの比較の視点を中心に、アジアから見た世界経済の歴史を講述する。	経済史の基本概念および世界経済の歴史的展開に関する基礎知識を身につけ、現代の経済社会の状況を歴史的視角から把握できる力（歴史的思考力）を培う。					◎	◎								

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4				
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力				
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4	
			理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働的実践力	実践的応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力	
経済政策論A・B E221-234-01 E221-234-02	政府は市場で効率的に配分できない財・サービスを規制や制度（ルール）を用いることで、できるだけ効率的に配分できるようにする。政府の政策を具体的な事例で理解する。	市場の役割と政府の役割を理解する。政府の役割に関して、政策の理論とその解決策を具体的な事例から学ぶ。						○	○		○						
社会政策論A・B E221-235-03 E221-235-04	人々の基本的な労働と生活を保障するのが社会政策であり、わが国では厚生労働省の管轄となる。雇用保障・生活保障について、これまでの展開、現状と今後を政策論的に論じる。	雇用保障・生活保障はますます重要性を増しつつあり、それらの位相を掘り下げて学習することによって現代日本における課題や問題点を把握できるようにする。						○	○								
日本経済論A・B E221-234-03 E221-234-04	先進国の中でも最も速く進む少子高齢化が今後の日本経済に与える影響や、世界経済の中における日本経済についての理解を深める。	少子高齢化が経済成長と財政・社会保障問題に与える影響や、貿易や直接投資が日本経済に与える影響についての議論を理解できるようになる。						○	○								
国際経済学A・B E221-234-05 E221-234-06	ミクロ経済学やマクロ経済学の理論をもとに国際貿易と国際金融の基礎的知識を身につける。	国際経済学の知識を身につけることで国際経済の中に置かれている日本の状況を把握し、グローバルな眼を養う。						○	○								
金融論A・B E221-236-01 E221-236-02	金融論Aでは、貨幣や金利、金融市場について学んでいく。金融論Bでは、デリバティブやファイナンスを概観する。理解を深めるため、関連するマクロ統計や金融に関するトピック的な話題も盛り込んでいく。	金融論Aでは金融の基礎的な仕組みを、金融論Bではデリバティブやファイナンスの仕組みを理解することで、新聞やニュースで報道される現実の金融の動きを理解できるようになる。						○	○								
財政学A・B E221-235-01 E221-235-02	国の歳入・歳入構造及び予算制度を学んだ上で、財政赤字問題、税制改革及び社会保障財政を検討する。最終的には高齢社会における財政健全化及び持続可能な財政運営について理解を深めたい。	国の財政制度を体系的に理解できるとともに、財政赤字の要因とその解消、高齢社会を乗り切るための「税・社会保障の一体改革」について、自らの政策論を展開できる能力を培う。						○	○								
ミクロ経済学III E231-231-03	ミクロ経済学IIIでは、一般均衡理論を説明する。一般均衡理論とは、複数の財を消費する消費者と生産者の市場における取引を分析する理論で、大学の経済学部で学ぶ標準的な経済理論である。1年次配当科目であるミクロ経済学IとIIの内容を用いる。また、数式を多用するため、経済数学IとIIの内容の復習を必要とする。大学院進学を目指す場合、この授業の内容の理解は必要なので、進学を希望する場合は受講を勧める。	・選好関係と効用関数の関係について説明できるようになること。 ・消費者の最適化問題を解いて需要関数を導出できること。 ・エッジワースボックスを説明できるようになること。 ・生産者の最適化問題を解いて供給関数を導出できること。 ・ワルラス均衡を求められること。 ・パレート効率性について説明できるようになること。 ・厚生経済学の第一基本定理を説明できるようになること。	○							○							

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ																
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4			
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力			
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4
理論的 基礎力	数量的 理解力	コミュニ ケーション 能力	ICT 処理 能力	文化的 理解力	問題 発見力	論理的 思考力	応用的 分析力	問題 解決力	協働的 実践力	実践的 応用力	倫理的 判断力	総合的 構想力	生涯 学習力			
マクロ経済学Ⅲ E231-231-06	必修科目のマクロ経済学Ⅰ・Ⅱで示された財市場・貨幣市場・労働市場の相互関連に立脚した上で、海外部門を導入したオープンマクロ経済学、さらに経済成長論に関して学習する。	現実の経済社会は、海外との関連を避けては通れないので、その影響と国内経済との相互関連を解釈し、さらに経済におけるイノベーションの役割を理解することができる。	○							○						
計量経済学A・B E331-233-03 E331-233-04	経済理論や数学を用いて経済モデルを構築し、現実を観測された経済データを用いて統計的にモデルを推定・検定し、シミュレーションを行うことを通じて、数量的に経済事象の分析を行う。	記述統計、最小二乗法、重回帰モデル、回帰モデルの検定等の基礎知識を用いて、数量的に経済事象を分析することができる。		○						○	○					
社会思想史 E331-232-03	古代から近代、現代までのメジャーな思想家は社会について、どのように把握し、人間はどのような社会に生きることが望ましいと考えたかを振り返る。	メジャーな思想家の仕事を知って、社会についての多様な見方があることを認識する。						○		○	○					
日本経済史A・B E331-237-03 E331-237-04	7世紀から21世紀初頭までの日本の対外関係や政策に加えて、生産・流通・消費の諸側面を含めた多様な側面から経済史を捉える。	日本経済の歴史の変遷を理解して、現代の経済状況を歴史的視点から考察することができる専門知識を身につける。						○		○	○					
西洋経済史A・B E331-237-05 E331-237-06	資本主義の類型論的比較の観点から、イギリスの先進国型近代化の展開過程とドイツの後発国型近代化の特質と問題性について講述し、近代化とナチズムの歴史的関連を展望する。	経済史の認識方法について理解を深め、資本主義の歴史に関する知見を拡げる。さらに、現代の状況を歴史的視点から把握する力を身につけ、ヨーロッパに関する異文化理解力を磨く。						○		○	○					
労働経済学A・B E331-235-07 E331-235-08	標準的な労働経済学を講義する。労働経済学Aでは労働供給、労働需要、労働市場の理論分析、労働経済学Bでは統計を用いた実証分析を扱う。	経済学の基礎理論が賃金や雇用の問題を分析する際にどのように応用されるのかを理解すること、労働に関する統計を読み解くことができるようになることが目標である。								○	○					
環境経済学A・B E331-234-15 E331-234-16	環境経済学の基本的概念、考え方について詳しくわかりやすく講義する。環境経済学の課題と方法、現代資本主義と環境破壊のメカニズム、環境ガバナンス論、環境費用論、環境の経済的評価などについて、事例に基づいて説明する。	環境経済学のテーマに則して、基礎的概念として、「環境とは何か」「サステナビリティとは何か」「人間と自然のあいだの物質代謝」「廃棄物の経済学的分析」「地球環境問題」などスライドやビデオも使用して理解を進める。								○	○					
都市経済学A・B E331-234-17 E331-234-18	都市の集積の経済および付価値地代の理論を学ぶことによって、農業、工業、商業、住宅、観光の立地を明らかにして、都市の空間構造を理解する。	都市の立地構造を学ぶことによって、商圏およびレジャー・観光施設の分析に活用することができるようになり、これらと関連する「まちづくり」についての理解を深める。								○	○					

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4						
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力						
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4			
理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働の実践力	実践の応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力						
公共経済学A・B E231-235-05 E231-235-06	公共経済学Aでは、ミクロ経済学を応用して、公共財が存在する市場における資源配分とその効率性について説明する。公共経済学Bでは、外部性と呼ばれる問題について説明する。外部性には負の外部性と正の外部性と呼ばれるものがあり、負の外部性を学習することは公害問題や環境問題の理解につながり、正の外部性を学習することは教育や医療に関する問題の理解につながる。春学期開講の公共経済学Aで説明する公共財と合わせて学習することで、様々な社会問題を理論的に理解し、解決方法を考えることができるようになる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・公共財とは何か説明できるようになること。 ・公共財に関するサミュエルソン条件を説明できるようになること。 ・ゲーム理論の基本を理解すること。 ・囚人のジレンマのゲームを用いて公共財のただ乗り問題を説明できるようになること。 ・クラークメカニズムを理解すること。 ・外部性とは何かを説明できるようになること。 ・外部性が存在するときに資源配分が非効率的になることを説明できるようになること。 ・外部性の解決方法について説明できるようになること。 ・展開形ゲームを理解できること。 ・部分ゲーム完全均衡を求めることができること。 																	
農業経済学A・B E231-411-01 E231-411-02	農業が安全な食料の供給だけでなく、環境保全や国土管理といった多面的機能を果たしていることを学び、これらの機能発揮のために必要な制度や政策、市場の状態について理解する。	現代の農業問題の背景を知り、制度や政策、市場が問題解決のために有効に機能するためにはどうしたらよいか、自らの意見を述べることができるようになる。																	
現代産業論A・B E231-234-07 E231-234-08	現代の高度に発展した経済は、様々な生産活動＝産業から成り立っている。Aでは産業間の関係（産業連関）と現代日本の産業構造について学ぶ。Bでは日本の産業構造の変化と経済成長について学ぶ。	A：分業の意義や産業間の関係（産業連関）などについて理解する。B：産業構造の変化とその要因、戦後の日本経済における産業構造の変化と経済成長などについて理解する。																	
地域経済論 E231-234-09	地域の経済・産業の特色・課題や、それらの基礎をなす地域経済の構造（しくみ）について、理論・歴史・データを参照しながら学習する。パソコンでの分析実習も行う。	①地域分類ごとに、各地域の経済・産業の特色・課題を知る。②地域経済の基礎をなす地域経済の構造について理解する。③地元（市町村など）の地域経済について自分なりに分析し把握できるようになる。																	
産業組織論 E331-234-14	市場支配力を生み出す企業戦略の考え方を身につけると同時に、そうした市場が生み出す効率性の問題や、それらに対処するための経済政策について学んでいく。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 価格差別についてその種類や特徴を理解できる。 2. 費用逓減産業における規制について理解できる。 3. ゲーム理論を用いた企業間競争について理解できる。 4. 合併の事例や効果について理解できる。 																	
社会保障論 E331-235-11	社会保障の発展過程を概観することでその役割や理念等を理解し、その上で、とくに日本における社会保障制度の課題を検討する。	日本の現行社会保障制度が直面している具体的な課題を理解し、それについて自分自身の意見が持てるようになる。																	

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP2		E-DP3			E-DP4			
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力			
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4
			理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働的実践力	実践的応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力
中小企業論 E331-238-05	日本の企業のなかで中小企業は99%を占めている。もともと経営学という学問は主に大企業を対象として形づくられているが、経営学部で学ぶからには99%という中小企業にも関心を寄せてほしい。本講義では、中小企業およびその経営・戦略について、正しく理解することを狙いとす。	経営学部の他の授業ではまともな学び機会のない中小企業を対象としているため、中小企業概念規定から始めて、中小企業の存立形態、経営・戦略上の特徴、経営者の役割について学習する。そうした学習を通じて、大企業と中小企業との違いについて具体的に明確な説明ができるようにする。							○	○						
国際貿易論A・B E231-234-10 E231-234-11	現在の経済は貿易を無視することはできず、欧米やアジア各国との貿易が日本経済を左右している状況である。貿易の基礎理論とその影響について理解を深める。	自由貿易、国際収支やTPP、経済連携協定など貿易に関した話題は日々途絶えることがない。その言葉の意味や目的、政策選択が及ぼす影響などを理解する知識が習得できる。							○	○						
国際金融論A・B E231-236-04 E231-236-05	国際金融に関する基礎的な用語、理論、制度を学ぶとともに、新聞や雑誌を使って時事的な問題について理解を深める。	国際金融の用語、理論、制度の枠組みに関する知識を身につけることにより、現実起こっている国際金融の複雑な問題を正しく理解できるようになる。							○	○						
開発経済学A・B E231-234-19 E231-234-20	新興諸国における貧困・人口爆発・教育衛生問題、開発独裁などが先進諸国での繁栄と同時進行している現代的課題について理論的な考察を行う。	地球規模での所得格差が経済のグローバル化とともに拡大している現状を理解することにより、開発援助や国際協力に対するポジティブな識見を培養することができる。				○			○	○						
アジア経済論 E331-234-21	日・韓自動車産業のものづくり型の比較を通じて、自動車や家電からインフラおよび重工業の分野にまで広がる日本の製造業の可能性を展望する。	製造業ものづくりの史的な転換と技術的進歩の仕組みが解り、ものづくりを基盤とする製造業ビジネスと業界の将来について見極める基礎的能力が培われる。				○			○	○						
欧米経済論 E331-234-22	ヨーロッパの社会・経済が現代に至るまでいかなる経緯を経て成立したのかを理解し、これをふまえて今日のヨーロッパ社会が抱える問題について考える。	講義を通じて得た知識などに基づいて、問題の源泉がどこにあり、どのような経緯を経て今日的な問題となっているのかを理解する。その上で、それらの問題について自分なりの意見を確立することを目指す。				○			○	○						
多国籍企業論 E331-238-01	企業の経済活動のグローバル化の急速な進展によって今や業種を問わず大企業とともに中堅・中小企業も多国籍化してきている。そこで企業が多国籍化する基礎理論と実践的な知識の両方を学習する。	現代では大企業や中堅企業に限らず中小企業やベンチャー企業までが多国籍化を余儀なくされている。なぜ企業は多国籍化するのかを戦略面やコミュニケーション面を中心に体系的に理解し、実践できるようになる。							○	○						
金融システム論 E231-236-03	前半では、我が国の金融機関の業態、機能、取り扱う金融商品について学ぶ。後半では、金融システム安定化のために実施されるブレード政策について学ぶ。	我が国の金融システムにおける各種金融機関の役割を知るとともに、金融システム安定化政策の重要性について理解する。							○	○						
金融政策論 E331-236-06	中央銀行の役割や金融政策の効果・手段、金融政策の歴史について学ぶ。理解を深めるため、金融に関するトピック的な話題も盛り込んでいく。	金融政策の目的・手段・効果について理解するとともに、現実に行われている金融政策が実体経済に及ぼす影響について理解・説明することができるようになる。							○	○						

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4			
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力			
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4
理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働の実践力	実践の応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力			
ファイナンス論 E331-236-07	ファイナンスは資金の流れに伴う広い領域を対象とするが、本講義では資金の運用サイドからみた投資理論と調達サイドからみたコーポレート・ファイナンスの基礎を学ぶ。	投資理論やコーポレート・ファイナンスを学ぶことにより、資本市場における資産価格の決定、企業における資金調達や投資案件の評価、投資家による資産運用、の仕組みや方法が分かるようになる。									○	○				
地方財政論A・B E331-235-09 E331-235-10	地方の歳入・歳入構造及び予算制度を学んだ上で、地方税制、国と地方との財政的関係、地方分権について検討する。最終的には、「活力ある、豊かな地方」を確立するための政策論を展開していきたい。	地方の財政制度、地方税制及び国と地方の財政的関係を学ぶことによって、自らが所属する県や市町村の財政状況の「良し悪し」を分析できる能力を培うことができる。									○	○				
会計学A・B E231-240-01 E231-240-02	会計とは、経済主体の経済活動について、関わりを持つ人々が、事情を分かった上で判断や意思決定ができるように、彼らに説明する社会的な行為である。会計とは何かから始め、会計の基本的な知識と考え方を習得する。	会計の考え方を身につけ、会計に関する幅広い知識を習得する。財務諸表を読んで判断や意思決定ができるようにする。									○	○				
経済情報論A・B E331-234-26 E331-708-01	経済活動における最新のICT活用事例や日本のICTによる経済成長メカニズムを知るのと同時に、社会変化の裏側にあるICTの知識を理解する。その後、社会を支え高度な経済分析にも有用なデータベースに着目し、その理論や技能を学ぶ。	ICTが経済に及ぼす影響について知ることができるのに加えて、ICTの知識を学習することで汎用的かつ応用可能な情報に関する素養が身につく。さらに、データベース理論やデータベース管理システム（Access）の技能が習得でき、経済データの管理といったことができるようになる。											○			
経済情報処理I E231-233-05	経済分野における事例にふれながら、数値計算、データベース機能、グラフ作成、関数設定などを学習する。Excelの操作方法といったスキルの修得にとどまらず、課題に対して自ら考え、その結果をまとめていく能力を養う。	経済分析の初歩的な情報処理の知識と技能が習得でき、レポートや卒業論文の作成、就職後のビジネス実務で活用できる情報処理能力が身につく。												○		
経済情報処理II E231-233-06	民間企業や政府・自治体では、経済の動きやプロジェクトの収支などを予測して、その結果を判断に活かすことが多い。このときに利用される、数式モデルを使ったシミュレーションの考え方と方法について実践的に学習する。	①数式モデルを使ったシミュレーションの考え方について理解する。②必要になる基礎的な数学とエクセル関数を身につける。③表計算ソフト（エクセル）を使って基本的なシミュレーションができるようになる。												○		
総合民法 E231-216-01	民法の中で、財産の帰属や取引に関わる財産法について学ぶ。財産法の基礎にあたる民法総則、物の帰属や移転に関わる物権法、契約や貸金の回収に関わる債権法の中から、経済活動にとって特に重要な項目について学習する。	民法についての大まかな知識を獲得することができる。問題が生じた際に、その問題を解決するための考え方を身につけることができる。													○	
租税法A（基礎） E231-212-01	本講義では、最近の租税に関する事例を題材として、租税法の基本原則、税金の種類と計算方法、申告と納税、税務調査と不服申立てなど基本的事項を修得する。	租税法の基礎知識を修得することができる。これにより、経済取引における予測可能性を確保するための税務の知識を養うことができる。														○

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4				
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力				
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4	
理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働的実践力	実践的応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力				
企業と法 E231-216-02	本講義では、会社についての法的な概念について学んだ上で、会社法の内容の中核である株式会社をめぐる法規制の基礎を学ぶ。	会社の役員が会社の運営を行ううえで遵守しなければならない規範の基礎を理解することができる。また、法的視点から見た株式会社のあり様についての知識が身につく。													◎		
行政法Ⅰ（総論）A E231-212-02	行政法の全体像および行政法総論の基礎的知識を学ぶ。	行政法の基本原理や独自のしくみを理解し、論理的文章で説明できる。													◎		
行政法Ⅰ（総論）B E331-212-03	行政法総論の現代的課題に関する発展的知識を学ぶ。	行政活動に対する法的統制の現状を分析し、論理的文章で説明できる。													◎		
行政法Ⅱ（各論） E331-212-01	行政救済法などの行政法領域に関する発展的知識を学ぶ。	各領域における行政法理論の動向を分析し、論理的文章で説明できる。													◎		
国際法A・B E231-213-01 E231-213-02	条約や慣習法に関する国際法の基礎から、人権、環境、経済等国際法上の個別テーマまで体系的に学び、現代国際社会が国際法により規律されていることについて理解を深める。	国際法の基礎的・体系的知識を修得するとともに、国際社会における歴史上の事実や時事問題について国際法の観点から評価することができる。													◎		
財務会計論A・B E331-240-03 E331-240-04	A：21世紀の会計の展開方向を確認しながら、それを支援する会計システムとしての共益三元簿記の概要を説明する。 B：21世紀の会計の展開方向を確認しながら、その展開を指導する新概念フレームワークについて、新旧の違いを明らかにして、近年姿を現してきた会計の大転換の内容を説明する。	A：1. パチョーリの神聖簿記論の理念を理解する。 2. 新しい会計システムの構造を理解する。 3. 資本主説と企業主体説の違いを理解する B：1. 新旧の概念フレームワークの違いを理解する。 2. 新しい会計が新資本主義への移行を促すことを理解する。 3. 営利会計と非営利会計の統合について理解する。								◎	◎						
国際会計論A・B E331-240-05 E331-240-06	現在、会計基準を世界で1つにしていこうという動き（会計基準の国際的収斂）が進行している。本講義では、会計基準の国際的収斂の動向と、国際会計基準とはどのようなものかについて、ケーススタディーを取り入れながら学習する。	会計基準の国際的収斂は、何故進行してきたのか。国際会計基準の特徴は何か、国際会計基準と日本の会計基準にはどのような相違があるかが理解できる。									◎	◎					
マーケティング論A・B E331-239-01 E331-239-02	企業のマーケティング活動とは、「動的に変化していく市場や環境に対し、企業が創造的に適応していく対市場活動」である。この授業では、マーケティング論の体系のうち、基礎的・総論的な内容について学ぶ。	ビジネスにおいて必要とされる、マーケティングの基礎的な概念や理論を身につけることができ、将来、自らマーケティング戦略を策定し、実行するための基本的な能力を修得することができる。									◎	◎					
国際マーケティング論 E331-239-03	21世紀になり高度情報化とグローバル化により世界市場は激変しつつある。このような情勢変化を踏まえ、マーケティング活動だけでなく物流活動にも注力しながら国際マーケティングに関する基礎と実践を学習する。	国際経営活動のなかでもマーケティング活動は先行性を有し、企業の海外事業展開を成功させるために非常に重要となる。それゆえ物流活動にも焦点を当て、実践的なマーケティング戦略が策定できるようになる。									◎	◎					

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4			
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力			
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4
			理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働的実践力	実践的応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力
環境ビジネス論 E331-239-04	環境ビジネスの促進要因と阻害要因を学ぶ。これらを踏まえてケース分析を行った後、実現可能な環境ビジネスプラン形成に向けたワークを実施していく。	環境ビジネスの阻害要因と促進要因を整理し、それらを踏まえた有効な環境ビジネス構想を描けるようになることが目標である。							○	○						
企業倫理 E331-238-02	企業倫理問題を理論と具体的な側面から接近する。理論学習は意思決定基盤の正しさを強化し、具体的なケース学習は、意思決定基盤を洗練し、強化する。一連の学習で得られた内在化された知見をケースライティングとしてまとめる。	他者に理解される形で自らの意思決定基盤について語れるようになるよう、(1) 関連理論を踏まえて、価値判断を示すことができるようになること、(2) 異なる価値観を持つ人々との共存を前提とする決定を行えるようになることを目標とする。										○				
中部経済論 E231-234-12	[財務省東海財務局の提携講座] 財務本省及び東海財務局などの現役財務省職員が講師として登壇し、財務省・金融庁の視点から「財政」「税制」「金融」等について講義が展開される。	財政、金融及び経済等に関する実践的な知識を身につける。										○				
地域ビジネス論 E231-238-03	本講義のテーマは、商業を中心に地域に根差したビジネスの活性化策を模索することである。停滞または衰退地域のビジネス（商業集積、商店）の活性化およびまちづくりを進めるための理論的枠組みと実践的手法を学ぶ。	地域ビジネス活性化はまちづくりと関連することから、履修者が、地域資源調査、街区調査、立地分析、都市計画、生活者行動調査等々の手法により問題を分析し、地域ビジネス活性化とまちづくりの提言ができる能力を身につけることができる。										○				
エリア・リサーチⅠ E231-234-13	地域経済の振興を担うシンクタンク（政策研究機関）である中部圏社会経済研究所と連携し、地域経済を分析するために必要な知識や事例等を学ぶ。	地域経済に関する知識、経済分析手法の把握する素養、それらを駆使して地域経済に対する提案を行う力、さらにフィールドワークを行うことで協働の実践力が身につく。									○	○				
エリア・リサーチⅡ E231-239-05	この講義では、中部地域に立地する企業の事例研究を行う。この事例研究は、我が国の中でも製造業が集積する地域のひとつである中部地域の製品戦略を組織間関係の視点で学習することにある。	この講義では、製品化、組織間関係、ブランド戦略を中心に、中部地区における企業の事例研究を通して企業の優位性と課題を見出す力を養っていく。そのためには、マーケティング関連科目の理解も深めていく。									○	○				
エリア・リサーチⅢ E231-238-06	ソーシャルビジネスに関するプロジェクトへの参画を通じ、実践的な学びを行う。グループ単位の活動がメインとなり、集団での成果実現に関する感覚も磨かれる。自らの能力を理解し、それらを伸ばすための更なる学習につなげていく。	(1) 成果の達成、(2) 成果達成に関連する個と集団との関係、学外者との関係維持、プロジェクトの厳しさを愉しきなどを実践を通じて生きた言葉で表現できるようになること、(3) 自らの能力理解について表明できるようになることが目標である。									○	○				
専門演習Ⅰ E232-842-01	4年次「卒業論文」執筆の基礎となる研究方法・論文執筆の基本的なノウハウなどを学ぶとともに、演習テーマに関連する基礎的な文献を輪読し、少人数による討論を行い、専門分野の理解を深める。	専門分野の基礎的内容を理解できるとともに、文献の読み方、関連資料・データの収集の仕方、レジュメの書き方、プレゼンテーションと討論の仕方といった、学びの基礎的能力を身につけ、それを実践することができる。									○	○		○	○	

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP2		E-DP3			E-DP4			
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力			
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4
理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働の実践力	実践の応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力			
専門演習Ⅱ E332-842-02	演習テーマに関連する問題についてさらに文献・資料を読み進み、相互に討論するなかでテーマを掘り下げていき、卒業論文の研究テーマを探る。	演習テーマに関する専門的問題について理解を深め、プレゼンテーションや討論をとおして課題を設定する能力を身につけ、卒業論文を準備することができる。								○	○			○	○	
専門演習Ⅲ E432-842-03	専門演習Ⅱまでの学びの成果を踏まえて、よりいっそう専門的な問題について文献読解、プレゼンテーション、討論などを通じてその理解を深める。そのうえで、演習における学びの総合として卒業論文の完成を目指す。	専門的な個人研究テーマを設定して、それに関する研究を主体的に進めることができ、課題を解決する力を身につけて卒業論文を構想することができる。								○	○			○	○	
卒業論文 E436-845-01	専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学びのなかから、卒業論文のテーマを具体的に決定して、それに関連する文献の収集と精読を行い、論文の完成を目指す。	卒業論文のテーマに関する参考文献やデータを広く収集し、論点を整合的に整理することができる。論文の編別構成を適切に組み立て、論理的な文章をもって論文を執筆することができる。									○	○		○	○	
専門講読Ⅰ（英語） E211-843-01	経済学の各分野やトピックスに関する基礎的な内容の英語文献を読み、経済学の専門用語やその内容を理解する。	基礎的な内容の英語文献を精読することによって英語読解力を高めるとともに、経済学と経済諸問題を理解することができる。			○		○									
専門講読Ⅱ（英語） E211-843-02	経済学の各分野やトピックスに関する発展的な内容の英語文献を読み、経済学に関する諸問題の理解を深める。	発展的な内容の英語文献を精読することによって英語読解力を向上させるとともに、経済学と経済諸問題を深く理解することができる。			○		○									
専門講読Ⅲ（英語） E311-843-03	経済学の各分野やトピックスに関する、より専門的および応用的な内容の英語文献を読み、経済学に関する専門的諸問題の理解を深める。	専門的・応用的な内容の英語文献を精読することによって英語読解力を磨くとともに、専門的な経済諸問題を理解することができる。			○		○									
経済学特講Ⅰ E331-236-08	[東海東京証券の提携講座] 現実の証券ビジネスを題材にした話題を解説し、資本市場で求められる証券会社の役割やその業務を理解するとともに、社会・経済動向へ興味を持ち、資産運用について理解を深める。	証券投資の基礎知識と証券会社業務の概要を理解する。社会・経済動向等へ興味を持ち、学生自身の将来の資産運用に関する基本知識を習得する。											○			
経済学特講Ⅱ E331-411-03	アグリビジネスの事業展開と私たちの日々の食卓が、どのようにつながっているのかを学び、持続可能な食料供給体制の構築について考える。	現代の食とアグリビジネスをめぐる問題の背景を知り、持続可能な食料供給体制の構築のために必要な制度や政策、市場のあり方について、自らの意見を述べるようになる。						○	○	○						
経済学特講Ⅲ E331-234-23	日本とドイツのエネルギー政策の比較を行う。とくにドイツが福島原発事故を受けて、最終的に脱原発を決めた経過と理由について詳しく述べる。	ドイツと日本のエネルギー大転換と原発政策、再生可能エネルギーについて、日独比較を行い、両国の課題を明らかにする。						○	○	○						

経済学部専門教育科目 カリキュラムマップ

授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP1					E-DP-2		E-DP-3			E-DP-4			
			基礎的学士力					基盤的学士力		発展的学士力			総合的学士力			
			E-DP1-1	E-DP1-2	E-DP1-3	E-DP1-4	E-DP1-5	E-DP2-1	E-DP2-2	E-DP3-1	E-DP3-2	E-DP3-3	E-DP4-1	E-DP4-2	E-DP4-3	E-DP4-4
理論的基礎力	数量的理解力	コミュニケーション能力	ICT処理能力	文化的理解力	問題発見力	論理的思考力	応用的分析力	問題解決力	協働的実践力	実践的応用力	倫理的判断力	総合的構想力	生涯学習力			
経済学特講Ⅳ E231-234-24	現在さまざまな課題を抱える日本であるが、第二次世界大戦後の廃墟の中から甦ってきた歴史がある。それはどうして可能になったのか。東西冷戦という現代史の中で、今後に生かすヒントを得る。	日本と世界の現代史と現状を把握する方法を学び取り、それらを基盤にして将来の社会の在り方と自らの対応の仕方を、自分の力で考えることができる能力を身につける。											◎			
経済学特講Ⅴ E231-235-12	政治（行政）は社会のあらゆる分野と深いかわりを持つ。政治の実態を知ることは、地域社会や経済の課題を理解するうえで極めて重要である。知事・市長の経験から等身大の政治（行政）の姿を伝えたい。	多面的なものの見方やその背後にある真実を見抜く力を養ってほしい。政治に関心のある学生を大いに歓迎する。											◎			
経済学特講Ⅵ E231-235-13	Financial literacy養成を目標とする。いかなる経済主体も金融から無関係でいることはできない。ブルーデンス政策（健全性確保）を中心に、金融とのかわりにおいて政府、企業、家計の取るべき行動を検討する。	新聞、一般経済雑誌の金融関係記事を理解したうえで論評し、銀行証券保険会社の実務家とひとりの議論ができるレベルを目指す。											◎			
経済学特講Ⅶ E231-236-09	我が国が直面する財政問題についてその現状、原因、対策を研究する。データによる客観的な認識を基に、問題を把握し、解決策を探る総合的戦略的な構想力を養成することを目標とする。	財政を社会保険、公共事業体も含めて公的資源配分による行政機能、国民サービスの裏付けとして考察していく。行政をめぐる広範な議論に対し、筋を通して対応できる骨太な政策能力養成を目指す。											◎			
キャリア英語Ⅲ・Ⅳ E231-144-03 E231-144-04	実用的な英語力、特にビジネスシーンで生かせる英語力の育成を目指して、TOEICを中心とした演習を行う。	1年次に受験したTOEICでのスコアが、学生においてアップするように目指す。具体的なスコアは学生の習熟度によって異なるが、一つの目標として、前年度よりも50-100点のアップを目指す。			◎		◎									
ビジネス英語A・B E331-143-01 E331-143-02	ビジネスに広く使える英語力の育成を目指す。英字新聞の記事、英語経済雑誌の記事を読みながら、実践的な英語表現を数多く演習したり、英語での電子メールを練習する。	辞書やICT端末を用いて、英字新聞や英語での経済誌の内容が把握できるようにする。また英語で基礎的な電子メールが作成できるようにする。			◎		◎									

経済学部キャリア教育科目 カリキュラムマップ

経済学部キャリア教育科目 カリキュラムマップ					
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP5	E-DP6	E-DP7
			基礎的キャリア形成力	社会人基礎力	応用的キャリア形成力
キャリア・デザインⅠ E131-861-01	大学4年間を有意義に過ごし、変化の著しい社会に自信をもって踏み出すことができるよう、自律的な自己成長につながる行動様式を学ぶ。自己分析や社会理解を進め、視野を広げながら、効果的目標を設定する力、行動計画を作成する力、行動を振り返る力を身につける。また、ディスカッションやグループワーク等とおして、他者と協力する力を体験的に身につける。	大学生生活の充実のための目標を設定し、その実現のために行動できる。 自分の潜在的な可能性を見つけ出し、それを伸張するために行動できる。 自己理解を深め、他者に表現できる基礎的コミュニケーション力が身につく。 関心のある職業世界について情報を収集し、興味の幅を広げることができる。	◎		
キャリア・デザインⅡ E231-861-01	卒業後に社会人として目指す自分の姿を明確にし、そのために必要な社会人基礎力を養う。 社会人として求められる思考力や行動力を、演習を通して体験的に学ぶ。 SPI試験の内容を理解し、インターンシップの早期参加を視野に入れ、応募書類を作成して面接練習を行うなど、3年次の本格的な就職活動への助走とする。	現在の自分の「人間力」を客観的に理解することができる。 将来のなりたい自分に必要な社会人基礎力（「考え抜く力」・「前に進む力」・「チームで働く力」）を実践することができる。 卒業後の目指す姿に近づくための目標と行動計画を立てることができる。 応募書類の作成を通して自分のことを相手に分かりやすく伝えられるようになる。 SPI試験問題の内容を理解し対応できる力をつける。		◎	
キャリア・デザインⅢ E331-861-01	未定	未定		◎	◎
産官民提携講座Ⅰ 税理士による租税講座 E231-861-02	税務の専門家である税理士から、税法、税制や会計について学び、税法と税理士の関わりや税理士業務の意義と役割について学ぶ。	税法、税制や会計の基本を理解し、租税に関する法や法理論の機能と課題等、税務の実際を知り、税理士業務の意義について説明できる。			◎
産官民提携講座Ⅱ E231-861-03	(非開講)				◎
産官民提携講座Ⅲ E231-861-04	「サステナブル・スマート」を目指す名城公園キャンパスの構想から建築に関わった実務家、省CO ₂ の効果測定に携わる研究者を招き、キャンパスをフィールドとして理想と現実を行き来しながら実際に学ぶ。	まず地球温暖化と都市温暖化の実際を理解し、次いで省CO ₂ を実現する需要と供給のエネルギー・マネジメントについて、工学的及び建築学的条件の最先端技術を学ぶ。			◎
産官民提携講座Ⅳ E231-861-05	産業界や行政のみでは対応できない問題に、市民セクターがどのような取り組みをしているかを学ぶ実務家講義である。社会問題の解決に人を巻き込みながら果敢に挑戦する実務者(企業・行政・NPOなど)を講師として招聘する、社会連携センターが提供する「地域・社会連携コース」のひとつである。	第1に、社会課題とその課題解決の方法・実践を学び、生活者としての視野を広げ、自分も実践できることを考えることができる。第2に、講師との対話やグループでのディスカッションをおとして、コミュニケーション能力を高めることができる。			◎
産官民提携講座Ⅴ E231-861-06	名古屋市内の商店街をフィールドとして、現地踏査、ヒヤリング等を含め、商店街の問題、課題を分析、課題解決のための提案を行う。 学習活動は受講生で構成するチーム単位で行い、商店街に課題解決プランを提案する。	①課題解決の手法の修得とスキルアップ ②商店街等地域属性の調査、分析手法の周知と修得 ③今日の都市問題の理解とその解決への基本的視点の獲得 ④地域社会の課題に対して有用で独自性のある提案力の獲得			◎

経済学部キャリア教育科目 カリキュラムマップ					
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	E-DP5	E-DP6	E-DP7
			基礎的キャリア形成力	社会人基礎力	応用的キャリア形成力
産官民提携講座VI E231-861-07	社会保険労務士（社労士）の仕事領域を知ることを通じて、社会的課題へのアプローチ、「働き方改革」や「女性活躍推進」といったトピックを学ぶことをとおして、健全な働き方について実践的に理解することができる。また、社会保険労務士の実際、資格を活かした働き方、労働法・社会保険関連の基礎知識を学修する。	ワークルールの理解、社会保険労務士の実際、資格を活かした働き方、労働法・社会保険関連の基礎知識を活用し、現実の事象を説明することができる。			◎
インターンシップ E231-861-08	企業や行政機関など実際の職場での就業体験をとおして、働くことの意味や就職に向けて準備すべきことなどについて考える。事前研修、事前訪問、事後報告会によって研究成果を高める。	就業体験をとおして大学での学修成果を実践し、協働の場で活躍するために必要なことを再認識することができる。さらに今後の大学での学びや進路の方向性を定めることができる。			◎